

2016年11月30日

HOBIA NEWS No.331

目次

- Bio Japan 2016 参加報告
- HOBIA 見学会 2016 報告
- 2016 第5回バイオイラストコンテスト
- 地域バイオ育成講座開催報告
- お知らせ(2017 新年例会)

● Bio Japan 2016 参加報告

Bio Japan は、バイオ産業におけるアジア最大級のパートナーングイベントとして発展しており、創薬、個別化医療、再生医療、診断・医療機器、ヘルスケア、環境・エネルギー、機能性食品、研究用機器・試薬に関わる会社、大学、研究機関の出展がある、たくさんのセミナーが開かれた。

2016年10月12日から3日間パシフィコ横浜で開催され本年は、再生医療展とも合同であった。来場者は、3日間合計15,133名(前年比109%増)全体の参加国は、29カ国、出展数558小間、とより規模が大きくなった。期間中の商談件数7,228件(前年比113%増)と発表されておりマッチングも成果をあげている。

種々のセミナーが開催され聴衆も多く満席で入れないものもいくつもあった。バイオクラスターサミット2016では、各国の状況を次々手際よく発表された。

BioCom California : ロサンゼルスからサンディエゴまで2時間のドライブの間に千のベンチャー企業がありバイオ関連の研究所が80ありメンバーは800人と地理的な集積がある。

イギリス MedCity は、ケンブリッジ大学、オックスフォード大学をコアとした健康科学の中心、国およびロンドン市からの多額の研究投資を得ている。

デンマーク Medicon valley コペンハーゲンおよびその南部地域 規模の小さいところも多いが200社以上が共同しており、川上のバイオバンクや中性子検出のシンクロトロンをそなえバイオマーカーの探索から川下の臨床検査オフィスまで幅広くイノベーションに挑戦している。

ドイツ: ミュンヘン地域と日本とのつながりは歴史も長く、日本の製薬会社ともたくさんの業務関係がある。免疫学分野での進展が盛んで、ビッグデータも活用した取り組みが行われている。

フランス: 国内には4つのバイオクラスターが動いており南部はスペインも巻き込んだクラスターである。第一のターゲットはヘルスケアで、老化など共通した4つの課題を中心に取り組んでいる。

台湾は、蔡首相はバイオテクが専門、副首相も感染症研究に強く、指導者がバイオに理解が深い。研究所と病院との連携が強く臨床検査に強い。

スポンサーセミナーでは、北海道が枠を取り「北海道から発信するバイオ産業クラスター」のテーマで、北野邦尋 HOBIA 理事長も発表した。

今年の Bio Japan の印象は、小規模の小間が多く出展されて研究成果や企業紹介が行われ、実質技術レベルの強い、よりマニアックな会となっており、マッチングの数が倍増したのもベンチャーの活発な交流の成果のように感じられた。Bio Japan は毎年少しずつ趣向を変えながらバイオとくに医薬医療分野の高付加価値産業の裾野を拡げ切磋琢磨を促している。キーワードの一つはオープンイノベーションであった。

HOBIA 副理事長・企画運営委員長 浅野行蔵

● HOBIA 見学会 2016 報告

- ・ 催行日：10月25日(火)
- ・ 目的地：千歳市及び苫小牧市
- ・ 訪問先： チトセ浜理薬品株式会社
苫東ファーム株式会社・苫東植物工場
- ・ 参加者：HOBIA 会員 9名参加

今年も企画運営委員会にて6月頃から見学会訪問先希望を上げていただき、その中から実施時期に見学を受け入れていただける施設候補を絞り込み、表記の2社の見学会を行いましたので報告致します。2社共ご多忙中にも関わらず、質疑応答含め丁寧に対応していただきました。事業のご発展を祈念申し上げます。

朝9時に札幌駅北口を貸切バスで出発、千歳市泉沢地区にあるチトセ浜理薬品株式会社へ向かいました。渡部執行役員工場長、案浦食品課課長、飯野総務課課長に迎えていただき、会社概要説明と工場見学をさせていただきました。1950年設立の浜理薬品工業株式会社(大阪)のハマリグループの生産拠点として千歳と米沢に工場があります。千歳には、医薬合成工場、食品工場、食品抽出工場があり食品関係の工場を見学させていただきました。製造量の多い順に上げるとタマネギエキス(ハム、ソーセイジ、ドレッシング等に使用)、唐辛子エキス(漬物、珍味等の味付け)、野菜・果汁エキスの順になるようです。別棟で医薬原薬の合成も行っていて、食品工場を含め反応・抽出タンクの数、合計容量は道内で最大ではないかとの説明でした。農産物原料は、カットされた冷凍品として受け入れている様です。食品工場で製造されている製品は主に他社から受託しているため、新たな製品を受託するためには製造時期等調整が必要ですが、機能性食品エキス製造を委託する会社とコラボすることも可能ではないでしょうか。

昼食は、行程上都合の良いサーモンパーク千歳の「IRODORI CAFÉ」で道産食材、特に千歳産野菜を使ったビュッフェレストランでしばし昼食を楽しみました。

午後は苫小牧市柏原地区にある苫東ファーム株式会社苫東植物工場へ向かいました。苫東ファームの山下取締役、岩崎生産部部長、フード特区機構の前田部長、林次長に迎えていただき、施設の概要説明と今年4haに増設された植物工場(ガラス温室)を外側から見学をさせていただきました。ご存知の様に「次世代施設園芸導入加速化支援事業」における全国10箇所の植物工場のひとつです。2014年第1期、2016年第2期工事が行われトータルで4haの植物工場が完成し、11月4日には完成祝賀会が予定されていました。全国の他施設ではミニトマト、パプリカ、キュウリ、ピーマン等を栽培していて、苫東はイチゴに特化しています。2015年から栽培を初め、収穫物の販路はケーキ屋さん。施設としてこの他に完全人工光ハウスもあります。苫小牧の立地条件として 日射条件、(イチゴ)栽培に適した気候(夏季25 超えが珍しい、積雪量が少ない)、物流に適した立地(千歳空港、苫小牧港)を考えた。しかし の夏季温度は目算が外れたとの説明でした。冬季の熱源は木質バイオマス利用(チップボイラー使用)している。支援事業において30%は再生可能エネルギーを使う目標があるが木質の場合回収は難しいとのことでした。現状作業は40名のパートで行っているとのこと。年間通してイチゴ栽培すると作るだけ売れ、需要に追いついていないため今後の発展が期待されます。

今回は見学会先候補が他にもありましたが、日程、見学の可否等の都合調整が上手く行かず幹事の力不足であったと思います。今年断念した所は来年以降の候補として、更に北海道に新しくバイオ関連施設が出来、見学対象になっていただく事を願いつつ報告を終えます。天候に恵まれたことと参加者のご協力により、行程通り順調に無事見学会を終え札幌駅北口へ戻り解散することが出来ました。今後の皆様の活動のお役に立ていただければ幸いです。

HOBIA 副理事長・企画運営委員 半澤 卓

● 2016 第 5 回バイオイラストコンテスト

今回で第 5 回を迎える標記コンテストが、これまで通り代々木アニメーション学院の協力のもとで行われた。札幌校のイラストに関係するコースは残念ながら昨年をもって閉鎖されたので、東京本校のお世話で、東京、名古屋、大阪、福岡各校の学生から 56 作品の応募があり、これらを一次審査で 13 に絞り、2 次辛酸を行い、以下のように決定され、11 月の企画運営委員会で承認・決定された。最優秀賞は、以下に示すように素晴らしいものであるが、その他の作品も素晴らしいもので順位をつけるのに大変な苦勞があった。作品制作にあたっては、こちらからの講義などの情報提供は、まったく行わなかったにもかかわらず作品の内容は、遺伝子組換え作物のベネフィットを十分に理解し、それを作品として完成したもので、応募者の理解は大変素晴らしいものと高く評価している。このような成果を見るにつけ、なぜ日本ではまだ反対が多く、遺伝子組換え作物の商業栽培が開始されてから 20 年たった今でも、わが国で栽培できないことが不思議でならない。科学技術立国を標榜し、また国民の教育レベルも世界で最高レベルにあるという我が国がこのような状況にあることは全く理解に苦しむ。産官学とくに国からの広報活動の不足と、学(大学)における科学の座に大きな懸念がある。これからもこのような活動がまだまだ必要なのであろう。

HOBIA 名誉理事長・アグリバイオ部会長 富田房男

【第 5 回バイオイラストコンテスト結果】

<最優秀賞(1名)>

・東京校_小暮菜摘(こくれ なつみ)

<優秀賞(2名)>

・東京校_井上さらら(いのうえ さらら)

・大阪校_楠瀬聖人(くすせ まさと)

<準優秀賞(3名)>

・大阪校_小暮梨奈(こくれ りな)

・大阪校_土井那菜(どい なな)

・大阪校_宮田葉月(みやた はづき)

<佳作(7名)>

・東京校_高野翔太(たかの しょうた)

・大阪校_平松洋輔(ひらまつ ようすけ)

・大阪校_榎本晃喜(えのもと こうき)

・大阪校_秦優一郎(はた ゆういちろう)

・大阪校_片山 雅(かたやま みやび)

・福岡校_三浦健二(みうら けんじ)

・名古屋校_梅原杜奈(うめはら もな)



2016 最優秀賞 小暮菜摘さん



2016 優秀賞 楠瀬聖人さん



2016 優秀賞 井上さららさん

● 地域バイオ育成講座開催報告

■ 地域バイオ育成講座 in 留辺蘂



地域バイオ育成講座 in 留辺蘂「地域ブランドセミナー～白花豆ブランドを守るために」が11月24日（木）午後6時から温根湯温泉の大江本家にて開催された。

本講座はるべし白花豆くらぶ、留辺蘂商工会議所のご協力のもと開催され、約30人が参加。あさかぜ特許商標事務所の中山俊彦氏から「地域を輝かせるブランドの活用法～地域資源のブランド化取り組み事例」として講演

があり、地域資源の知財化の取組が「地域を輝かせるキーステップ」であるとして地域団体商標、地理的表示保護制度（GI）が紹介され、「十勝若牛」「十勝糖彩」などの身近な取り組み事例も紹介された。これらの登録経緯では地域団体商標ではブランドとしての周知性が登録の要件となり、メディアで紹介されること、品評会、イベントなどで紹介されたり賞をとることは大きく評価される。申請までの取組、露出が重要であるとのことだった。続いて、北海道バイオ工業会の三浦健人から「ヘルシーDoに関する動向」が紹介され、制度施行から3年を経過し、認定品目は37社71品目を数え、その売り上げ実績や販売展開上のメリットが紹介された。



また認定事業者で共同して行う制度・商品のPR「美人ランチ」が好評で、複数企業で、あるいは地域全体で取り組むことで費用負担を軽減し高い効果が期待でき地域ブランド構築のヒントとなったのではないかと。最後に株式会社アクトナウの杉山央氏より「クラウドファンディングを通じて、可能性への挑戦！」と題してクラウドファンディングを利用したプロジェクトで新規製品開発や新事業の着手について講演があった。失敗を恐れずに「どこの誰のための何をするための」資金なのかをわかりやすく提示してプロジェクトに投稿するのがポイントという。70%くらいのアイデアで資金調達を始めて、マーケットの反応を見ることができなのがクラウドファンディングの特徴。集まるかどうか、事業そのものの魅力や、出資に対するリターンとしての商品、サービスの魅力を測ることにもなる。クラウドファンディングでの資金調達成功の秘訣はキャッチーなトップ画像にあると言い、閲覧に一定の時間を要する動画よりもわかりやすいキャッチコピーと写真の方が良い、など具体的な手法についても紹介された。講演後は活発な質疑応答、意見交換と個別相談があり、白花豆関係者にも関心の高いセミナーだったようだ。

HOBIA 企画運営委員 三浦武人

■ 地域バイオ育成講座 in 美幌

2016年11月25日美幌グランドホテルにて開催された。

全体テーマは「発酵技術を活用した差別化商品開発およびヘルシーDo」

最初の講演は、「北海道ヘルシーDoの説明と活用法」三浦健人氏（北海道バイオ工業会）が、ヘルシーDoの成り立ちの歴史、機能性表示食品制度との相違点を解りやすく解説し、具体的にオリゴノールの試験結果なども示し、企業がこの分野に参入した場合の取り組み方などを紹介された。会場からは、アスパラガスの小葉の入った食品の場合の質問があり、機能性の目安として含有するルチンの濃度を定量するとヘルシーDo制度とのすりあわせができる可能性があるとの説明された。

横山清美氏（美幌商工会議所）「豚を使った調味料「美幌豚醬」の市場化戦略」と題して、美幌の名産であった豚を使っての美味しい食品作りの歴史と起業化へのサポートについて地域のキーパーソンの連合があったことなど話された。

大友真佐美氏は、「オホーツク旨いもん」と題した発表で、氏は個人業としては Food Office Masami としてオホーツク圏の食品開発サポートを行い、同時に合同会社びほろ笑顔プロジェクトを起業し業務執行社員として、豚醬の製造および拡販を行っている。豚醬は、豚肉を麹で発酵させた調味料で商品名「美幌豚醬まるまんま」として販売している。喜多方のラーメン屋さんにも採用されて既に道外進出にも成功している。研究開発に携わっていた時は起業までするとは思っても寄らなかったと述べる元気いっぱい女性でした。

経産局からの情報タイムとして、先日募集が始まった「ものづくり補助金」の制度について小林弘和氏（バイオ産業課）が宣伝を行いました。

武内純子氏（オホーツク圏地域食品加工技術センター）もバイタリティーのある女性研究員で「オホーツク地域からの酵母分離と地域産業への利用」として、個性的な発酵ができる酵母を地域から探索して、地域らしい飲料を作ろうと種々の工夫を凝らし積極的な試作をしているようすを発表された。

HOBIA からの話題提供として、浅野行蔵が「酵母という不思議の微生物の基礎と応用」と題して、人類と長く生活を共にしてきた酵母にもまだまだ未解明の要素もあり、きょうかい酵母の高発酵の理由がつい3年前にわかってきたことなど、微生物の不思議と面白さを発表した。

約40名の参加者は、最後まで熱心に聞いて、それぞれの話題でいくつもの質問が出て活発な会となりました。

講演の後、豚醬を使った、あるいは地域酵母を使った食品が試食として提供され、講師を交え参加者により活発な交流を行いました。

本会の開催には、オホーツク財団および美幌商工会議所の多大なご協力を頂き、さらに北海道経済産業局、北海道、北海道バイオ工業会のサポートを得て開催されました。

HOBIA 副理事長・企画運営委員長 浅野行蔵

● お知らせ

2017 HOBIA 新年例会 予告

2017年1月27日（金） 午後1時より 北海道大学 学術交流会館にて

【講師】

石埜正穂 教授 札幌医科大学 医学部医科知的財産管理学
塚本芳昭 氏 バイオインダストリー協会 専務理事

HOBIAのホームページ <http://www.hobia.jp>

NPO法人 北海道バイオ産業振興協会
札幌市北区北21条西12丁目コラボ北海道内
Tel&Fax (011) 706-1331
e-mail: jimu@hobia.jp